

---

# 巻 頭 言

## 文献検索

大学看護学部で高齢者看護学概論を教えている。学生には初学者用に執筆された教科書的書籍を購入させ、講義で使用する部分だけでなく、まずは全貌を見渡すためにも一読するよう伝えている。教科書的な役割を担うこれらの書籍の執筆は容易なことではない。内容は国家試験が一つの基準となるとはいえ、執筆者の専門を考えると「この章はもっと最近の知見を書きたいところだろう」と推測することもしばしばある。書きたいことをぐっところえて抽象度の高い言葉に置き換え、広い視野に立って学生の思考を促すのがこれら書籍の役割でもあるから仕方がない。講義をしていてもそれは同じである。話している私の頭の中にはAさんの顔、家族の奮闘する姿が微細に浮かんでいるのだが、うまく伝えられない。学生にはどんな映像が頭の中に描かれているのだろうかといつも気になる。その不安が解消されるのが実習であり「伝えたかったのはこのことだったのよ。」と言える貴重な機会となっている。

ある実習の一コマである。担当した高齢女性が好む「化粧をする」という行為を支援することで、元の生活にもどることへの意欲、自己効力感に繋がらないかと学生は考えた。学生のその支援の根拠は「対象者は化粧が好き」ということだけであり、計画立案の説得力が乏しいことは明らかである。「化粧を文献検索して深めてみては。」とアドバイスしたら、早速、控え室で自分のスマートフォンを稼働させ本学のメディアセンターにアクセスしていた。文明の利器は大いに利用すべし、とここではスマートフォンの使用を許可し、検索結果を期待した。そうしたら、「こんな文献を見つけました！」と満面の笑みで学生がやってきた。化粧の感情への影響や上肢筋力、手指の巧緻性への影響などに関する論文が数件ヒットしていた。看護師として「化粧をする」という行為への支援の意義がみえてきた学生は嬉々として化粧を取り入れた看護計画を立て始めた。解剖学や生理学、身じたくと社会参加といった専門基礎科目と専門科目、そして教養科目での学びが研究論文をとおして合体し花開いた瞬間である。

「試験勉強はうんざりだけれど、看護実践の参考になる文献を見つけ出すことはおもしろい」。研究論文が学生のやる気を引き出すのである。大きな枠組みを示している教科書と目的を絞って探求している論文。この行ったり来たりのおもしろさを伝えることも大学教育の役割だと思う。そして、本学会も研究を通して、次世代に看護のおもしろさを伝える役割を担っていることを再認識し、学会誌のさらなる発展と活発な研究活動を支援していきたい。

平成 28 年 3 月 吉日

東邦看護学会理事長  
横 井 郁 子  
(高齢者看護学研究室)

---